

## 第5回河原地域振興会議

日 時 令和元年10月28日(月)  
午後1時30分～3時30分  
場 所 河原町総合支所 第6会議室

### 〔出席委員〕

竹田賢一会長、楮原典子委員、倉信 敬委員、中村佳紀委員、坂本悦子委員、西尾 純委員  
奥谷仁美委員、坂本綾子委員、山縣恒明委員 以上9名

### 〔欠席委員〕

小谷加代子副会長、谷口正博委員、河毛 寛委員

### 〔事務局〕

九鬼支所長、森田副支所長、西山市民福祉課長、前田産業建設課長、平尾地域振興課課長補佐

### 〔交通政策課〕

湯谷課長、井殿主事

### 〔株式会社バイタルリード〕

宮下課長、福富主任

### 〔傍聴者〕

なし

### 会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告・協議事項
  - (1) 鳥取市生活交通創生ビジョン策定に向けた意見交換会 【資料1】
  - (2) 河原町総合支所新本庁舎について 【資料2】
  - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉 会

## 議事概要

### (1) 鳥取市生活交通創生ビジョン策定に向けた意見交換会

(交通政策課、バイタルリード 資料1により説明)

#### <地域の公共交通に関する課題について>

(委員) 西郷地区の鳥取市有償バスはどの便か。

(交通政策課) 朝の1便のみが鳥取市有償バスとして運行しています。

(委員) 日ノ丸自動車の路線バスに対して、市は補助金を出しているのか。

(交通政策課) 市として補助をして路線を維持している状態です。

#### <地域の公共交通に関する課題についての意見>

- ・高齢者にはバス停まで歩くのが大変なのでドアツードアで迎えに来てくれる交通手段があれば良い。
- ・鉄道とバスが連携して、一定の時間間隔でどちらかを使えるようにしてほしい。
- ・ある程度利用が集中している便は、市中心部までの直通の要望ができるかもしれないが、利用が見込めない便は難しいと思う。実証実験をして、利用者数などのデータを取って結果を見て要望する方が良い。ある程度期間を設けて、データを取った方が具体的な改善策が検討できるのではないかな。

#### <移動手段の確保策、主に共助交通（交通空白地有償運送）について>

(委員) 共助交通（交通空白地有償運送）と互助交通（ボランティア輸送）の具体的な違いや、注意点などをもう少し詳しく教えてほしい。

(交通政策課) 大きな違いは、互助交通（ボランティア輸送）は運送の代価として運賃を支払う（受け取る）ことができないため、燃料費程度の範囲に制限されています。また、注意点としては、どちらの輸送手段も地域の人が運転して地域の人を輸送するため、他の意見交換会では負担が大きいという意見が挙げられています。

(委員) 共助交通（交通空白地有償運送）の市からの支援内容を教えてほしい。

(交通政策課) 車両の購入費は市が負担します。また、運行に係る経費も市で支出するため、共助交通（交通空白地有償運送）の運行主体となった団体は赤字が発生しない形で運営ができます。

(委員) 運転者に対する給与（手当）はどのようになっているのか。

(交通政策課) 受け皿となる組織が事業の一部として実施するため、雇用条件等は市が関与していません。しかし、給与についても運行経費の一部であるため、市の補助に含まれます。大和ふれあいタクシーの運転者の時給は900円です。

(委員) 河原地域には交通空白地域が4ヶ所あるが、今後どのようにしようと考えている

のか。

(交通政策課) 市では、公共交通に対するニーズがあっても、担い手(運転者)不足の深刻化により、それに答えられない状況です。様々な選択肢がある中で、市としては地域の人が担い手となって移動手段を確保する共助交通(交通空白地有償運送)を提案したいと考えています。

(委員) 共助交通(交通空白地有償運送)は路線バスのように時刻が決まっている運行ではなく、予約制のドアツードアの運行でも良いのか。

(交通政策課) ドアツードア型で運行している例も多いです。大和ふれあいタクシーについても定期便(1日2便)と、希望者を乗せる予約制のデマンド型の2つの形態で運行しています。

(委員) 共助交通(交通空白地有償運送)を始めるにあたり、どの規模の組織が必要となるのか。また、どの程度の収益で経営が成り立つのか教えてもらいたい。

(交通政策課) 経営については、市からの支援があるため赤字が出ないような形で運営をすることができます。運営組織の規模に指定はありませんが、運行の管理が必要になるため、ある程度まとまった単位の規模(公民館区等)で運営することが現実的ではないかと考えています。

(委員) 福祉有償運送の内容を説明してほしい。

(交通政策課) 他の移動手段との大きな違いは、身体の不自由な方や障がいを持っている方等、利用者が限定される点です。

#### <移動手段の確保策、主に共助交通(交通空白地有償運送)についての意見>

- ・河原は近年、様々な企業が立地しており、若い人も増えているので、移動手段の確保策に対しては、企業との連携を検討してはどうか。
- ・スーパー等の商店の送迎と組み合わせではどうか。過疎地域ではお互いの共存共栄の必要性から実際にスーパーが送迎をしている事例がある。
- ・共助交通(交通空白地有償運送)は良いと思うが、これから運転者の高齢化は進む一方だが、一方で元気な高齢者も多いと思う。バス運転者の定年の年齢を引き上げるような仕組みを考えていく必要があるのではないか。
- ・スマートフォンを使って、電話しなくても前日予約や確認ができれば良い。利用者はスマートフォンを使えないかもしれないが、家族が使って予約することもできる。
- ・免許返納を推進していくつもりであれば、返納しても生活に支障がないようなシステムを作っていく必要がある。
- ・移動手段の確保策について、企業やバス・タクシー経営者側、地域住民に対して「このようなことができる」という選択肢を多く提示してほしい。

#### <公民館職員による共助交通(交通空白地有償運送)への関わりについて>

(委員) 共助交通(交通空白地有償運送)に関する人手という点で、来年度から公民館職員の兼業が認められるため、公民館職員が担うことは可能ではないか。

(事務局) 兼業の範囲は職員課がまだ結論を出していない状況です。公民館職員の労働時間は、

週 31 時間になるので、法定労働時間に合うように検討すれば運転業務として関わることできるかもしれません。

(委員) 地域住民としては、公民館は職員が常駐しているので1番連絡が取りやすい。

(交通政策課) 公民館の職員が管理部門を担っていただくことも1つの方法としてはあります。

(委員) 公民館の業務として予約・配車等の管理をすることは難しい部分もある。受け皿としてどのような役割を持たせるか検討していく必要がある。

<高齢者の外出や外出支援策等についての意見>

・自分で好きな時間に動けることが「生きがい」につながるため、免許返納してしまったらそれができなくなることが課題だと思う。

・岡山市の「ももちやり」等、一人乗り電気自動車のような、安全に移動できる乗りものを提供した方が、高齢者は外出しやすいのではないか。

・路線バスや共助交通（交通空白地有償運送）だけでなく、シニアカーや電動自転車の購入に対して補助金が出るような制度があればよい。

<公共交通による生徒の通学についての意見>

・共助交通（交通空白地有償運送）を検討する際は、高齢者だけではなくて、生徒の下校対応も検討してはどうか。

## (2) 河原町総合支所新本庁舎について

(森田副支所長資料2により説明)

## (3) その他

特になし

閉会后、新本庁舎の現地見学を実施